

立ち振る舞いを持つさま

aconnodation → interior・exteriorにおいて両方ともに対して



multi focus → さまざまな視点からの姿にも 気を使うさま



→ 誰かの行為によってモチーフとして 周知されている成り立つさま



inflection

→ 人・もしくわ周辺環境による要求

による歪みをもつさま



symbolic communication → 建築が象徴性を持つことで コミュニケーションが生まれるさま



→ 建築の外形であり、シルエットのようなもの



profile



では私は、彼の言葉と作品から、時間的・文化的相違による誤解を生まないよう、概念レベルの図化をしていくことで、ヴェンチューリの建築思想を明示していこうと思う。

そして彼の建築作法である【walk around】から敬意を評するようなライバルを設定し、建築手法である【symbolic communication】からモチーフ・プロフィール・サーフェイスを決定し、 そして【your design】からパロディではなくオリジナルな作品を作るために自らの経験【your history】からくる直感を信じて3つのプロジェクトへと入って行く。

一元的デザインから多元的デザインへ - ロバート・ヴェンチューリの建築思想を通して -





rhetorical structure → 構造的必然によりそれ自身が立ち振る難し



hierarchy → 重要度を見極め立ち振る舞いとしての 見られるための順位をもつさま



difficult whole → さまざまな事象により武味的複雑件を



both and → 距離・方位的に多重の意味を



style → その娘の文化であり様式であり

9 1 6 9 2



→ 他者に情報を与えるためのもの



L: いつまでも使われ続ける外部劇場 / 上野公園 とする。これらは筆者の独断で決められるが、 すべてにおいて普遍性をテーマにおいている。

私は愛される建築を多元的デザインとして、ロバート・ヴェンチューリの建築思想を通して考えてみることにする。

具体的には、ヴェンチューリの言葉にある「ドレスについたブローチのような建築」を大きなテーマとして設計を行っていく。

ヴェンチューリはアイロニカルな言説と図化によって自らの思想を明示してきた。

受される建築とはなにか。

スケール・プログラム・敷地をそれぞれ、 S・車屋のようかキオスク / 有楽町 M:普遍的で普通な住宅/江東区塩浜

1966年のロバート・ヴェンチューリのように。

これらは筆者が好まないものとしてあった経済合理主義による一元的なデザイン (less design) に対して、 筆者が好むものとしてあった多元的なデザイン (more design) を、自らの建築設計のマニフェストとして大きな声で宣言するためのものである。





→ 敷地とその影響力とその影響を受けたさま



single plan → 平凡で基本的で単純な平面と断面により 施工性と利便性を獲得していること

surface

→ 内外問わず建築の表面のこと



core brock → 水淵りや縦動線を主とめることにより 施工性と利便性を獲得していること



geometric plan → 平面に幾何学を多用することにより 施工性と利便性を獲得していること

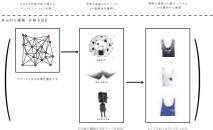


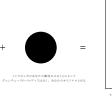
→ 構造やプランニングをグリッド化することにより 施工性と利便性を獲得していること



curved surface

environment → 敷地・地域・自然・建築・人などの







→ そのモノが情報を持ち、何かを伝えるためのもの



material → 表面にある素材により情報の変化を



→ 内外問わず表面の色のこと

→ リステノの折離によって 見えるモノが変わること



→ 建築の外形が彫刻的な美化をもつこと

→ 風とその影響力とその影響を受けたさま



→ 自然合理的な構造美をもつもの

→ 太陽光とその影響力とその影響を受けたさま



影響力とその影響を受けたさま





decoration

→ そのものには必然性はないものの



proportion window → 窓割りを比例的にスケールを変えることに よってリズムと象徴性を生むこと



→ 資味を持ちながらそこに

→ 階段の下に空間をつくること

cabinets steps



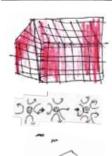
→ 跳望と採光のための窓のこと

direction → バースペクティブとスケールと方位による oriel → 出窓であり展場所のこと









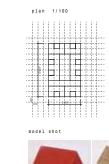


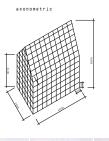
red house / kiosk 「"赤い家"の前にいるね。」 これが重要な会話である。 有楽町は銀座や新橋などに近く 日本でも有数のオフィス街で ありながらも歓楽街としても栄えている。 そこには学生から大人まで 幅広い世代を許容する機能が 詰まっている。 しかしその多様さが複雑さを生み 駅を中心にどの方面においても 同等のレベルの異なることの無い

風景が広がっている。 ここに象徴性を持ったkioskを 計画する。 それは渋谷のハチ公のような機能を 持ち得ながらも、東屋のような、 小さな商業施設のような、多様さを 持った"赤い家"である。



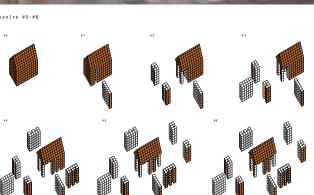
architecture like a broach on a dress















【ハチ公】



[イエガタ]



[#]



profile

[# #]





















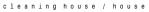






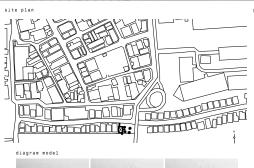




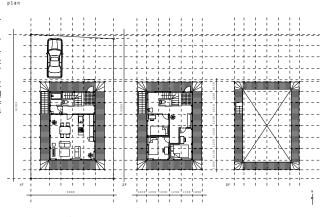


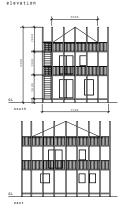
「家、洗濯しますか。」 ここはいわゆる問題視される ような住宅地でもなく、関静な 住宅地でもない。ただただ見過ごしがちで 忘れ去られているかのような場所である。 そしてこの敷地はなにを隠そう わたしの家の目の前にある。 このような"目に留まらない場所"は ある意味普遍性を持っているといえるが architecture like a broach on a dress

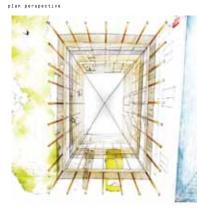
人々は当たり前のように豊かな暮らしを そんな"目に留まらない場所"に、 未完成のような様相をもった住宅を 計画する。それはまるで衣服を洗濯 するように、 車を洗車するように、 手入れすることのできる家。 いつでも手入れすることができることとは 自分の家を愛することにつながる。























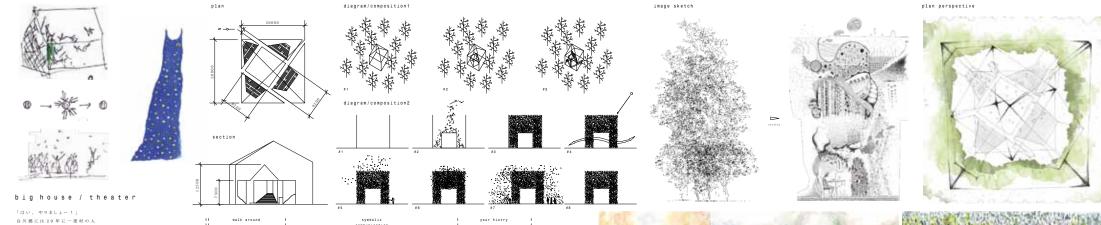












[| | | | | |

profile

【大きな家】

がボランティアで来着き屋根を 取り替えるという文化がある。 一力が勢神さは大年遷さいう 20年ごとにまったく同じものを 解につくるという伝統がある。 これらのふたつは20年という時間を 基準にしながら、サスティナブルという

概念を介も引き継いでいる。 しかし"結"と"式年遷宮"の違い

外部が内部のようになる劇場。

注参加性にある。式年遷宮は私たち の参加を見ることでのみ寄する。結は 中後朝的であろうとも、誰でもが参加する ことができる。そんなたくさんの人が 力を合わせることで生きてくる嫌寒を 計画する。それらは人だけではなく、 時間によって自然が参加することによって architecture like a broach on a dress

[白川第]